

第2回 内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用に関する連絡協議会 議事要旨

日 時：2024年3月19日（火）10:30-12:00

場 所：日本内航海運組合総連合会 会議室（Web 会議併用）

参加者：日本内航海運組合総連合会、日本旅客船協会、全国油脂事業協同組合連合会、
日本船用工業会、鉄道・運輸機構（事務局）、国土交通省、豊田通商、
ダイセキ環境ソリューション、海上・港湾・航空技術研究所

議題1 2023年度の実態調査について（資料1-1,2）

◆事務局、調査協力者（海上・港湾・航空技術研究所）より説明

- 23年度実態調査では内航船を対象に、①船舶から発生する廃食油の種類・量、②船内での保管方法・場所、③港湾への引渡し方法、④船舶にかかる規制等の扱い、を調査。
- 調査結果を踏まえた課題は、①船舶側の負担とならない回収方法、②回収廃食油の一時保管の方法、③バイオ燃料のバンカリング方法。

◆主な意見・コメント

- 航空業界におけるカーボンオフセット、温室効果ガス削減のスキームでは認証にあたりトレーサビリティ取得が求められる、海運業界でも踏襲することが望ましい。
- 廃食油の回収にあたり、廃棄物扱いでのトレーサビリティ取得は可能と考えられる。
- 廃食油の回収方法は引き続き議論が必要。

議題2 2024年度の調査計画・予算計画（トライアル実証）について（資料2-1,2）

◆事務より説明

- 24年度から廃食油回収ガイドライン及びバイオ燃料活用マニュアル作成のための具体的なトライアルを実施。
- 24年度は23年度調査結果の深掘り調査と陸上エンジン燃焼実験、実船でのプレ実証実験を予定。25年度から複数の船でのトライアル実証実験を開始予定。

◆主な意見・コメント

- トライアル実証の懸念点は、①バイオ燃料の品質確保・保証、②トラブル発生時の本船・船主の損害求償（補償や保険の担保）、③軽微な不具合の発生可能性、④バイオ燃料の混合方法。
- バイオ燃料利用の事前確認・整理事項として、トライアル実施港における燃料の供給状態、船舶保険の扱い、メーカーや燃料事業者の責任範囲、燃料混合によるスラッジ発生等に関心あり。
- トライアル実証期間は廃食油の回収量、バイオ燃料の混合率などを踏まえながら決定。
- トライアル実証後もバイオ燃料を使用できる現実性のある混合率の設定が望ましい。
- 廃食油回収の実証にあたりトレース可能なシステム等の検証・活用が望ましい。
- 品質保持について、バイオ燃料の規格化等、最低限の認証機能の仕組みづくりが重要。

議題3 関連情報について（資料3-1,2）

- ◆事務局より船舶におけるバイオ燃料の利用に関する調査検討委員会参加報告、関係省庁のバイオ燃料の関連予算を説明。

議題 4 その他（資料 4-1,2 他）

- ◆事務局より、連携協議会の情報発信サイト開設、取材対応状況を説明。
- ◆次回の連絡協議会は、7 月から 8 月に開催予定。

（以上）